

2011年(平成23年)12月12日

「夢のマイホーム購入」

……。現在、賃貸生活をしている一家は、いつかはわが家もーと考えているところも多いだろう。マイホーム購入自体は決して悪いことではなく、むしろ積極的に勧めたいくらいである。ただし、気を付けて

CFネット流 家実践塾

いただきたいのは、その選択基準(物差し)が、知らぬ間にすり替わってしまうことである。

新聞の折り込みや郵便ポストに投函されるチラシなど、お目を自にする不動産広告には決まって「今の家賃と同じ支払い」という

4

夢のマイホームの落とし穴

売り文句が踊っている。仮に今の家賃が10万円だとすると、同じ10万円の支払いで購入できるのなら買わなきゃ損だーという気持ちになること自体は間違いではない。

「この前の物件には〇〇がなかったけれど、この物件には付いているー」「この前の物件は△△がオープンだったけれど、この物件

なら少しでも設備が優れた物件にしようか」ということとなる。ここで、物差しすり替わり現象が起ってしまうのだ。

モデルハウスやオープンハウスという場合は、言ってみれば不動産と購入希望者のお見合いの場である。もともと、どの物件も「心

「家賃並み」がいつの間にか背伸びせず予算内の選択で

ってモデルルームやオープンハウスなどに足を運ぶ」となる。この時点では「今の家賃と同じなら買ってもいい」が物差しである。

物件見学初期のころは何が悪いのか、何が悪いのかの区別がつかず、あちこちの物件を場当たり的に見学して比較検討することになるが、見て回った後に何と

がきめへ「よしよし」になり込まれる。ただし、価格によって設備や仕様に差が出るのは当然であり、高ければ高いほど設備や仕様もよりゴージャスになるに決まっている。冷静に考えれば当たり前の話である。

しかし、前述した「物差しすり替わり現象」に感染してしまっている人、その



CFネット不動産コンサルタント・藤原浩行(CP M)